

# 障害者の力で特産品であるイチジクとコンニャクの認知を拡大

〔運営主体：特定非営利活動法人 縁活〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「おもや」〕（滋賀県栗東市）

WEBサイト：<https://enkatsu.or.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 滋賀県栗東市の「おもや」は、平成23年、NPO法人縁活によって設立された就労継続支援B型事業所。現在は、知的障害者を中心とする施設利用者21名が、イチジクやコンニャク芋等の生産とコンニャク製造を通年で行う。
- 平成27年には、加工によって作物のロスが減らして収益を増やすべく、自然栽培で生産した野菜を提供するレストランを開設。平成30年には、農林水産省の交付金を活用して、コンニャク等の加工施設を整備して生産量の増大を図る。
- 平成29年には、福祉事業を営むNPO法人として認定農業者になるなど、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。

## 取組の内容

- ◆ 平成23年の開設当初は、栗東市が産地であるイチジクの生産が主だったが、その後に経営規模を拡大。現在は、耕作放棄地を再生した約2haの田畑で、イチジク（ハウス3棟）のほか、自然栽培による水稻とトマト等の野菜（ハウス2棟）、コンニャク芋を栽培。
- ◆ 野菜は12種類もの多品種を少量栽培することで、直売所での販売品目を増やせるほか、自家レストラン「おもやキッチン」で食材として提供。
- ◆ 障害者は、農作業全般、農産物の出荷・販売、レストランでの接客・盛り付け等の業務を行う。
- ◆ 平成30年度「農山漁村振興交付金」を活用して、特産品である「栗東産コンニャク」の製造等のための施設と休憩所を整備。

農産物加工施設



おもやキッチンの外観



## 取組の効果

- ◆ イチジクという単価の高い果実の栽培、コンニャク製造という加工まで行うこと、レストランでの野菜の提供等を組み合わせることで、平成30年度の売上は700万円にも上り、平成30年度の平均月額工賃は約28,000円と、滋賀県平均を大きく上回る。
- ◆ 加工施設の整備により、障害者の就労機会が増加。
- ◆ 鳥獣害を受けやすい中山間地域であるが、鳥獣はコンニャク芋の「えぐ味」を忌避することから、コンニャク芋の栽培により、鳥獣害対策にもつながっている。
- ◆ 平成29年には、認定農業者となり、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。

コンニャクの栽培



農林水産大臣の視察



# 京都の伝統野菜を障害者の手で生産

〔運営主体：社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会〕

(京都府京田辺市)

〔事業所：就労継続支援B型事業所「山城就労支援事業所『さんさん山城』」〕

WEBサイト：<http://www.kyoto-chogen.or.jp/communityplaza/sunsunyamashiro/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 京都府京田辺市にある「山城就労支援事業所『さんさん山城』」は、平成23年、社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会によって設立された就労継続支援B型事業所。現在は、聴覚障害者やひきこもり経験者等を中心とする32名が、京都の伝統野菜の生産と加工作業に通年で従事。
- 宇治茶の手摘みやエビイモの手掘りなど、障害者の手作業により、高品質な京都の伝統野菜を生産。
- 平成29年、京都府によって農福連携の推進拠点として指定。福祉施設によるモデル的な取組として、多くの視察を受け入れるなど、府内にとどまらず、全国各地や海外にまで、農福連携の普及啓発に取り組んでいる。

## 取組の内容

- ◆ 農地70aにおいて、京都の伝統野菜である宇治茶、エビイモ、京田辺ナス、トウガラシ等を栽培。特に、宇治茶栽培については、高齢化によって廃園予定だった茶園約20aを借り入れて実施。
- ◆ 障害者は、宇治茶の手摘みやエビイモの手掘りなど、手作業を中心として作業全般に従事。
- ◆ 収穫した農産物を加工して、濃茶大福やエビイモコロックなどの加工品を製造。また、自社でコミュニティカフェを併設し、ワンコインランチを提供。

## 取組の効果

- ◆ 荒廃していた茶園の再生に成功。障害者の手作業により、高品質な「京の伝統野菜」の生産を維持することにつながっている。
- ◆ 技術の高さを信頼され、JAから、非常時の供給用として、エビイモ苗の育苗を依頼されている。
- ◆ 濃茶大福は、平成31年に京都のスイーツコンテストで最優秀賞を受賞、エビイモコロックはAPECの会合でランチで提供するなど、付加価値の高いオリジナル商品がヒット。収益増と利用者の工賃向上を実現。
- ◆ ワンコインランチは連日完売。最大80人/日を超える来客で盛況となるなど、地域課題の解決に興味がある方々等にとって、貴重な交流の場に。
- ◆ 農福連携の取組を評価され、平成29年、京都府によって農福連携の推進拠点として指定。全国で講演を行うなど、普及啓発に取り組む。

手摘み収穫する宇治茶



京都エビイモの手掘り



エビイモコロック





# 規格外品に着目した農産加工による地域活性化

③連携型（うち福祉側の取組）

（京都府与謝野町）

〔運営主体：社会福祉法人 よさのうみ福祉会〕

〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援B型他）「リフレかやの里」〕

WEBサイト：<http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 京都府与謝野町にある「リフレかやの里」は、社会福祉法人よさのうみ福祉会が運営する多機能型事業所。現在、農作業に取り組む就労継続支援B型事業所では、施設利用者16名が、野菜生産と農産加工に通年で取り組む。
- 自社で生産した野菜の規格外品に加え、外部の農業者から規格外品を買い付けたうえで、農産加工品を製造し、その加工品を農家に売り戻す活動を実施。このことが、農産物の付加価値を高め、障害者の工賃向上に貢献。また、食材廃棄の減少にもつながっている。

## 取組の内容

- ◆ 農地3.6haにおいて、九条ネギ、ジャガイモ、カボチャなどの野菜をハウス8棟と露地で栽培。
- ◆ 自社で生産した野菜の規格外品に加え、外部の農業者から規格外品を買い付け、漬物、ジュース、ジャム、ソースなどを製造して引き渡し、外部の農家が独自のブランドで販売。また、野菜や学校給食の原料としても安定的に販売。

## 取組の効果

- ◆ 規格外品を活用し、食材廃棄の減少を実現。
- ◆ **農産物加工品の売上高は、年間約2,000万円を計上。**また、利用者の平均月額工賃は最高約5万5千円と、京都府平均の約1万7千円を大きく上回る。
- ◆ 加工作業だけではまだ余力があるため、近隣農業者において、施設外就労として農作業も実施。ネギの定植や草刈りなどを通じ、障害者が農業者と触れ合うことで、地域農業の活性化にも貢献。

加工場の様子



未利用規格外の農産物



農産物直売所



農産物加工品



〔ハートランド 株式会社〕（大阪府泉南市）

WEBサイト：<https://www.kokuyo.co.jp/heartland/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 大阪府泉南市にあるハートランド株式会社は、文具やオフィス家具等の製造販売のコクヨグループの特例子会社であり、農地所有適格法人。現在は、知的障害者5名・精神障害者2名を含む従業員18名が、養液栽培によりサラダホウレンソウ等を通年で栽培。
- 24時間コンピュータ管理を導入して、ハウスの温湿度管理を行うとともに、定植用パネルの洗浄機・自動包装機を導入するなど、難しい判断については機械を上手に活用して効率化を図ることで、安定的な生産を実現。

## 取組の内容

- ◆ 水耕栽培ハウス4,100㎡において、サラダホウレンソウ等を養液栽培。ベッド数90床、年間16作。光・温度・二酸化炭素などを完全管理した「苗テラス」で育苗を行う。
- ◆ 障害者が担う農作業は、障害特性に応じて、播種・育苗・定植・計量・袋詰めなどに細分化。また、農産物の定植・計量には、近隣の障害福祉サービス事業所から、年間延べ約6,000人の施設外就労を受け入れるなど、労働力の外部委託も実施。
- ◆ 内外部の障害者を受け入れるために、作業工程ごとにイラストを用いたマニュアルを作成。
- ◆ 24時間コンピュータ管理を導入して、ハウスの温湿度管理を行うとともに、定植用パネルの洗浄機・自動包装機を導入。

水耕栽培



## 取組の効果

- ◆ 特例子会社として、障害者を水耕栽培で通年雇用。コクヨグループの法定雇用率を安定的に達成。
- ◆ 確かな技術と適切な作業分担により、年間50t、1日165kgという安定的な収量を確保。
- ◆ マニュアルにより、障害特性に応じた作業の効率化に成功。また、終業後に、作業貢献度に応じてシールを配布することで、障害者のモチベーションを維持。
- ◆ 難しい判断については、機械を上手に活用して効率化を図ることで、安定的な生産を実現。

定植作業の様子



苗テラス



農産物の包装作業など





# 生協出資の農業法人とA型事業所により、生協を軸とした取組を展開

〔株式会社 いずみエコロジーファーム〕（大阪府和泉市）

④グループ内連携型（農業側から参入）

WEBサイト：<http://www.izumi.coop/coopsaien/#company>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 大阪府和泉市にある株式会社いずみエコロジーファームは、平成22年、大阪いずみ市民生活協同組合が設立した農地所有適格法人。平成24年に、就労継続支援A型事業所「ハートランド事業部」を設立して、障がい者を雇用。現在、知的障がい者を中心とする利用者約20名が、露地・ハウスの野菜栽培に通年で取り組む。
- 生協出資の農業法人であることから、生協が求める品質を満たす農産物は、生協が買い取ることで販路確保。また、生協店舗で出た食品残渣を堆肥化として使用するなど、生協を軸に生産・販売・消費の循環を生み出している。

## 取組の内容

- ◆ 和泉市内の圃場3.9haでは、ハウス50棟で小松菜やトマトを栽培を実施するほか、キュウリ・ゴーヤ・ホウレンソウ等の露地栽培も実施。障がい者は、エンジンの付いている農業機械で行う以外の作業はすべて実施。
- ◆ 年間通して収穫出来る小松菜は、1日約1,500袋出荷。特売時期は約2,500袋出荷。欠品は出来ないので多めに生産している。主に生協の宅配で販売。
- ◆ 食品残渣の堆肥化は生協の特例子会社が実施。
- ◆ 生協が求める品質を満たす農産物は、生協が買い取ることで販路を確保。また、自らA型事業所を設立することで、障がい者の人手も確保。

## 取組の効果

- ◆ 人手と販路を安定的に確保することで、利益が安定化。会社設立時に1haだった圃場は規模を5倍に拡大。農業での単純売上は、約5,000万円を実現。
- ◆ A型事業所として大阪府の最低賃金を支給しており、月額12万円程度。
- ◆ 高い農業技術を信頼され、平成23年に市から認定農業者として認定。
- ◆ 生協を軸に、障がい者の手による生産・販売・消費の循環を生み出している。

農場遠景



農作業の様子



農産物加工場



食品残渣由来の堆肥を使用した農産物

